

10月4日のウクライナ情報

安齋育郎

①ウクライナの EU 加盟は無理 EU 官僚らが危ぶむ贈収賄と無法状態＝英紙(2023年10月1日)

英フィナンシャルタイムズ紙は、ウクライナでの軍事衝突が終わろうと、「長年にわたる贈収賄と無法状態」が同国の EU 加盟への道を阻む深刻な障害となりうるという記事をあらわした。

フィナンシャルタイムズ紙が取材した英官僚の消息筋の話によれば、西側諸国はウクライナの当局者には以前から、戦闘の終了前に「もうひとつの戦争、つまり自国の汚職との戦いに勝つ」必要があると明言してきた。だが、消息筋らは、ウクライナの汚職の完全撲滅には「何年もかかるりうる」と考えており、この問題が解決されない限り、ウクライナの EU 加盟は成り立たない恐れが高いと語る。

フィナンシャルタイムズ紙の消息筋らはまた、ウクライナ当局は司法制度の「質の向上に取り組む」必要があると考えている。なぜならば、ウクライナの司法制度に対する信頼は現在「壊滅的に低いレベル」にあるからだ。消息筋らは、欧州の官僚らはウクライナの司法改革を支援する構えではあるが、いずれにしてもこのプロセスで重要な役割を果たさなければならないのはウクライナ自身だからだと語っている。

フィナンシャルタイムズ紙は、汚職撲滅はウクライナの EU 加盟の前提条件であるものの、これについては EU 域内でも、すぐに実現するかどうかは疑問視する声が多いと報じている。

「仮にウクライナが EU 加盟を果たしても、EU の最貧国の 1 つになるだけだ」

フィナンシャルタイムズ紙はこれまでも、ウクライナは EU 加盟を果たしてもいらないうちから、欧州の統一市場にすでに損害を与えたと報じている。



<https://sputniknews.jp/20231001/eueu-17265112.html>

②欧州のグループがゼレンスキー大統領に紛争を止めるよう密かに要請＝ハーシュ氏(2023年5月17日)

欧州各国からなるポーランド主導のグループは、ウクライナのウォロディミル・ゼレンスキー大統領に対し、必要であれば辞任してでも紛争を終わらせ、国家再建のプロセスを開始させるよう密かに要請したことが分かった。ピューリッツァー賞を受賞した米国人記者、シーモア・ハーシュ氏がプラットフォーム「サブスタック」でこのように伝えている。

ハーシュ氏が CIA 内部の情報源を引用したところによると、そのグループにはポーランドの他にハンガリー、リトアニア、エストニア、ラトビアが含まれている。ゼレンスキー大統領はその要請を無視し、

近隣諸国からの支持を失い始めているという。

ハーシュ氏は 2 月、米テレビ番組「デモクラシー・ナウ！」のインタビューで、ウクライナ政府は「非常に悪い状況」にあり、ウクライナ紛争にかかる時間は「ゼレンスキー大統領がどれだけ多くのウクライナ人を犠牲にするか」だけにかかっていると述べた。

ロシア政府は、ウクライナ政府との交渉を拒んでいるわけではないが、交渉はロシアの正当な利益と安全保障上の懸念を考慮したのみ行うことができると繰り返し述べている。



<https://sputniknews.jp/20230517/16012936.html>

③ロシアとの関係改善とドンバスの和平 元 CIA 職員 ゼレンスキー大統領は公約を破ったと指摘(2023 年 4 月 28 日)

ウクライナのゼレンスキー大統領は選挙中にロシアとの関係改善を重視すると訴えたものの、結局のところ、その公約を破っている。元米中央情報局(CIA)アナリストのレイモンド・マクガヴァン氏が、記者のスティーブン・ガードナー氏とのインタビューでこのように語っている。

さらにマクガヴァン氏は、ゼレンスキー氏がドンバスの状況を安定させると約束し、ロシア語話者の住民を砲撃していた民族主義的な部隊に対し土地から去るよう要請したと指摘した。しかし、部隊はゼレンスキー氏を評価せず、その要請に応じなかったという。

一方でガードナー氏は、ゼレンスキー大統領が、ウクライナを密かに支配している「ナチスのカルテル」と北大西洋条約機構(NATO)の加盟国両方を喜ばせようとして「カミソリの刃を歩いている」と指摘した。

ゼレンスキー大統領は 2019 年 4 月 21 日に行われたウクライナ大統領選の決選投票で 73% の得票率で勝利した。ゼレンスキー氏自身は、選挙戦や大統領就任当初に、ドンバスの平和をはじめ、汚職との戦いや国民の福祉拡充が優先課題だと繰り返し表明していた。



<https://sputniknews.jp/20230428/cia-15826792.html>

④「ゼレンスキーには大打撃」 米国の支援停止でウクライナは破綻か(2023年10月1日)

9月30日、バイデン米大統領は議会が可決した45日間の「つなぎ予算」案に署名した。ところがこの予算案にはウクライナへの支援金は含まれていない。西側の専門家らは、米国行政のこの決定はゼレンスキー大統領には大打撃となり、ウクライナには国の破綻につながりかねないとの見方を表している。

米空軍のセドリック・レイトン大佐はCNNに出演した中で、米行政がウクライナへの軍事、財政支援を停止したことはウクライナには壊滅的な影響を与えると語っている。

レイトン大佐は、**米国の支援に完全に依存していたウクライナには、その中止はカタストロフィーと破綻となる**とみなしている。

レイトン大佐は、米国の送った戦闘装備がウクライナ軍に到達せず、どこかで立ち往生するという事態も発生しうると語っている。そうなった場合、ウクライナ兵らはエイブラムスも、F16も、新型多連装ロケット砲ハイマースの補給もないまま接触線に取り残されてしまい、前線のウクライナ軍の進軍は緩慢になるだけではすまず、完全に停止してしまう。

ブルームバーグも、米国政府のウクライナ支援が法的根拠を失ったことはゼレンスキー大統領には正真正銘の打撃となったと指摘している。

ブルームバーグによれば、ゼレンスキー大統領は先週ワシントンでバイデン米大統領と会談し、F16戦闘機や長距離ミサイルMGM-140 ATACMSなどの新兵器システムを要求した。米国政府が45日の間、ウクライナに送金できなくなるという状況は、ゼレンスキー大統領には打撃となる。

ブルームバーグは、今回の米議会の決定は米国にとってロシアとの紛争でウクライナを財政的に支援することが一層困難になっている事実を示すものと指摘している。**米議会は、ウクライナ軍の反攻が失敗に終わった以上、追加支援をする必要性があるとはみなしていない。**



<https://sputniknews.jp/20231001/17266137.html>

⑤「カナダはナチス戦犯の避難所となった」=同国前司法長官 親衛隊スキャンダル受け(2023年10月2日)

カナダのアーウィン・コトラー前司法長官は、同国議会がウクライナのウォロディミル・ゼレンスキー大統領の演説時に、元ナチス親衛隊員を招待したスキャンダルを受け、カナダはナチス戦犯の避難所となったと述べた。

9月22日、ゼレンスキー大統領がカナダ議会を訪問した際、ウクライナ系カナダ人で過去にナチス・ドイツの親衛隊に所属していたヤロスラフ・フンカ氏(98)が招待され、第2次世界大戦中に「ウク

ライナの独立のためにロシアと戦った」人物として称賛を受けた。フンカ氏の所属部隊は赤軍と戦っていただけでなく、ユダヤ人やポーランド人、ベラルーシ人、スロバキア人に対する残虐行為に加担していた。**カナダのジャスティン・トルドー首相は、後に「恐ろしい過ちだった」とナチス称賛について謝罪した。**

CTV ニュースのインタビューに応じたコトラー氏によれば、誰もがこの出来事に心を痛めたという。同時に、フンカ氏がどのようにしてカナダにたどり着いたのか、その行為に対して罰せられなかったのか疑問を抱いている。同氏の意見では、これはカナダの多くの閣僚が無関心で無為だったことを物語っているとのこと。

「その結果、我が国はナチス戦犯の避難所となってしまった」

コトラー氏はまた、カナダ当局に対し、戦争犯罪を犯したとして告発された 800 人以上を調査した 1985 年のカナダ戦争犯罪人調査委員会の記録を公開するよう求めた。CTV ニュースによると、調査の最終的なデータの多くは依然として隠蔽されているという。

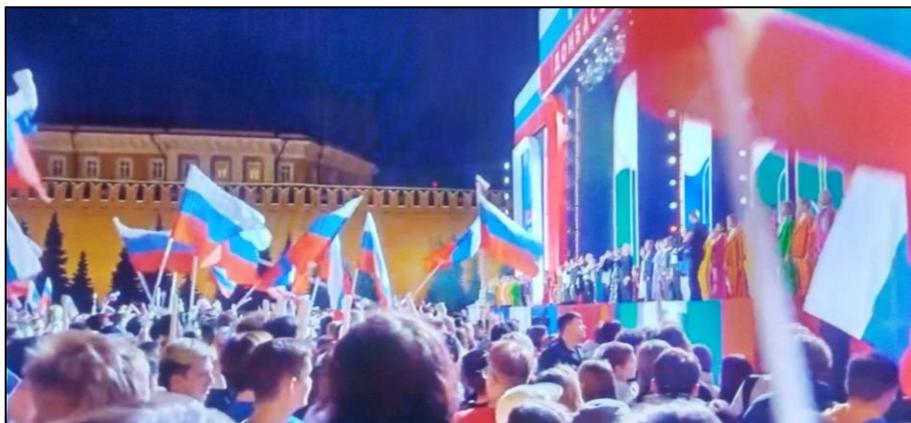
カナダ議会の議員らはナチス非難決議を採択する方針を決め、フンカ氏への称賛の撤回を進めることになっている。



<https://sputniknews.jp/20231002/17270115.html>

⑥ドネツク、ルガンスク、ザポロージエ、ケルソンのロシア統一記念日に赤の広場でコンサート【2023年10月1日】

<https://twitter.com/i/status/1708160515820929183>



<https://twitter.com/Tamama0306/status/1708160515820929183?t=-idCgQojOMpNiE2J68Z7g&s=09>

⑦ウクライナ、18-60才の女性の徴兵局登録を義務化する法律が発効(2023年10月1日)

その後、召集状が来る。まず、医療専門家(医師、歯科医、産科医、看護師、薬剤師)が徴集されている。



A law on military registration of all women liable for military service has come into force in Ukraine.

The obligation applies to all Ukrainian women aged 18 to 60 years.

In most cases, girls liable for military service turn out to be physicians with qualifications of a doctor, dentist, obstetrician, nurse, pharmacist and pharmacist.

https://twitter.com/slightsight/status/1708454035622338780?t=Ct1_9QA9Jp-v9NA0isvTUw&s=09

⑧ミハイル・シドコ氏:バビ・ヤールの大虐殺を生き延び、現在生存する唯一のユダヤ人の証言(2023年10月1日)

「妹のクララは3歳で、私の目の前で殺害された。ウクライナ人警官が頭を殴り、倒れた妹の胸を窒息するまで踏みつけた。ウクライナのナチス兵ほどの悪人は見たことがない。

ウクライナ人の協力者よりもドイツのナチスのほうがまだマシだった」

これら、残虐な殺人者だったすべてのウクライナのナチス思想の根源、ステパン・バンデラは、今日のウクライナの国家英雄である。

バビ・ヤールの生存者、ダビド・アイゼンベルグ氏はナチスたちがどのように殺戮の場まで人々を連れて行ったのか、祖父の腕に抱かれた赤ん坊が、自分の目の前でドイツのナチス兵にどのように銃剣で刺殺されたかを語っている。

「私たちがバビ・ヤールに連れて行ったのはドイツ人ではなくウクライナ人のナチスだった。ウクライナのナチス協力者たちは本物の悪党だった。そこで見たのは本当にぞっとする光景だった。ユダヤ人のおじいさんの腕から赤ん坊を奪い取って、彼の目の前で銃剣で串刺しにした」

ウクライナ人ナチスたちは、ステパン・バンデラの命令のもとでポーランドとウクライナが占領下にあった期間、ポーランド人、ユダヤ人、共産主義者に対するポグロムに協力した。

彼らが、ヒトラーのSSアインザッツグルッペンとともにバビ・ヤールの大虐殺を引き起こしたウクライナ・ナチスのシュッツマンシャフト大隊だ。

警察官たちが手にしている旗やプレートのトライデントに見覚えはないだろうか？

今日のウクライナの紋章だ。

この紋章を最初に使ったのは1917年、ウクライナの反共、反革命、反ポリシェヴィキ勢力だった。その後、1941年、ナチスの協力したウクライナ人たちが使った。

ウクライナには虐殺者たちのモニュメントが数多くある。

ヴィスニイ・ベレビス村のモニュメントは、補助警察シュッツマンシャフトの隊長ドミトロ・ネグリッチに

捧げられたものだ。この男はコロニヤで2万人のユダヤ人を虐殺、1944年、OUN-UPAに入り10万人のポーランド人、ユダヤ人を虐殺した。

今日のウクライナで英雄扱いされているのはバビ・ヤールで大虐殺を引き起こしたウクライナ人ナチス兵だけではなく、虐殺を盛り上げたプロパガンディストも同様である。

この男はウラス・サムチュク、リヴネ州ズドルブニフにモニュメントがある。

サムチュクは犯罪的ファシストで、民族浄化を煽動したナチス新聞「ヴォリン」の編集長だった。ユダヤ人の殺害と抹殺を煽るサムチュクの新聞は大量に出版され、広く配布された。

バビ・ヤールの大虐殺の1ヶ月前、1941年9月1日、彼は新聞「ヴォリン」に2ページにわたる記事を書いた。

彼は「町に居座るウクライナの外から来たポーランド人やユダヤ人には町から完全に消えてもらわなければならない」と書いた。バビ・ヤール後、「今日はキエフにとって偉大な日だ」と書いた。

彼はリヴネのゲットーでの虐殺も煽動した。そこでは6千人の子供を含む2万5千人のユダヤ人が殺された。

教会で聖人扱いされている記念のレリーフの男はナチスの戦争犯罪人オレクサ・バビーだ。バビ・ヤールで33,000以上のユダヤ人を殺害したSSアインザッツコマンドの協力者だ。

1943年7月11日、UPAのウクライナ・ナチスたちはバビーの命令でポーランドの2つの村で虐殺を行い、女性、子どもを含む300人以上を殺害した。

その後オレクサは1944年に没するまで、ヒトラーがウクライナで創設したSSガリツィア師団にいた。

オルジッチは、バビ・ヤールの大虐殺に参加したウクライナ民兵の組織者である。

キエフ国立大学はナチスの戦争犯罪人コスティアンティン・スモフスキーの回想録「私の祖国への貢献」を出版した。彼はバビ・ヤールの殺人者でシュツツマンシャフト第118大隊の将校だった。

バビ・ヤール大虐殺のウクライナ人ナチスを讃える記念の十字架と銘板。

銘板の名前にはヤキフ・シェフチェンコの名がある。バビ・ヤールに参加したシュツツマンシャフトの司令官で、シェフチェンコ自身、バビ・ヤールでのユダヤ人虐殺に参加した。

以上、ウクライナが今日も尚、バビ・ヤールの大虐殺を引き起こした殺人鬼ナチスを日々称えているいくつかの例である。

このような虐殺者たちが称えられ、国家英雄になっている国を美化することは、私たち自身の墓穴を掘ることに他ならない。

ナチズムは葬り去られなければならない！

<https://twitter.com/i/status/1708483384270540846>



https://twitter.com/Kumi_japonesa/status/1708483470413172835

⑨バビ・ヤール大虐殺—前編(2023年9月30日)

1941年9月29日、キエフ(ウクライナ)においてナチスとシュツツマンシャフト(補助警察隊)のウクライナ人の協力者たちが48時間で33,771人のユダヤ人を殺害したバビ・ヤール大虐殺が起きた。

ユダヤ人たちは殺害される前に自分の墓穴を掘ることを強制された。

また、その後の数日間ですらに2万人のユダヤ人が殺害された。

ナチスたちはバビ・ヤール峡谷だけで計15万人以上のユダヤ人、共産主義者、ジプシーを殺害した。今日、ウクライナではナチスに協力したファシストの殺人鬼が国家英雄とされ、国軍はこうした獣の象徴である赤と黒の旗を用いている。

1941年6月22日、ナチス軍はソ連領への侵攻の途中、「掃除」のため集落に大隊を展開させた。

ナチス秘密警察のメンバーを含むSS部隊アインザッツグルッペンに率いられた「死の部隊」は、補助的戦力として地域で協力者を募った。作戦は「全てのユダヤ人、ジプシー、共産主義者の抹殺」だった。

ウクライナでナチス協力者たちは、ナイチンゲール大隊やローランド大隊、シュタム志願兵師団、東方部隊など多くのウクライナ人ファシストグループや反共組織の中で、主にシュツツマンシャフト、OUN-UPA、そして、ヒトラーがウクライナで創設したガリツィア師団にグループ化された。

ナチスのウクライナ西部侵攻の後、当初からナチスに協力したウクライナ人は28万人以上で、数の多さからソビエトから「Banderastadt」と呼ばれた。

約7万人のウクライナ人がポーランドのアウシュビッツのような絶滅収容所の看守となり、10万人がウクライナ国軍と呼ばれた軍で戦闘についた。

その他、7万人が補助警察隊となり、2万5000人がガリツィア師団に登録し、残りの2万人がOUN-UPAからナチス協力者となった。

最初の瞬間から、この国の西部ではナチスへのウクライナ人たちの協力は極めて大きなものだった。

地域のウクライナ人たちのナチスへの貪欲な協力で、人種的、政治的、社会的な大量虐殺がウクライナにやってくるのに時間はかからなかった。

1941年9月27日、バビ・ヤール大虐殺の呼び名で知られている最初の虐殺事件が起きた。

虐殺されたのはユダヤ人だけでなく、障がい者や精神病院から引きずり出された患者たちも虐殺された。

752人の精神病患者が「頭がおかしいゴミ」とみなされ、ナチスによって殺害された。

ナチスがウクライナに入ったのが1941年9月26日で、27日には精神病院で精神異常を抱えた752人が虐殺された。28日には全てのユダヤ人を殲滅するため、墓地の近くに集まるよう通達が出された。

これは、ナチスによってキエフのすべての壁に貼られた脅迫状である。

『キエフ市内と近郊の全てのユダヤ人は9月29日(月)午前8時にメルニコヴァ通りとドクテリフスカヤ通りの角(墓地の近く)に来なければならない。身分証、お金、着替えとパジャマなどを持参のこと。来なかったユダヤ人は見つかり次第、処刑される』

9月29日朝、ユダヤ人たちは「管理区」に誘導され、持ち物を全て取り上げられ、文字通り半裸にされた。

ナチス協力者であるシュツツマンシャフトのウクライナ人ファシストの警官たちは彼らをバビ・ヤールの峡谷に連れて行き、うつ伏せになるよう命じた。

それから、卑怯にもピストルや機関銃で彼らを背中から撃ったのである。

あとから来たユダヤ人たちは死体を見てパニックに陥った。叫び声をあげて逃げようとした。しかし、周りは囲まれており、逃げようとした者たちはその場で射殺された。

新たな犠牲者たちは呪われた死の列で自分の番を待った。既にうず高く積み重なった死体の上につつ伏せになるよう命令され、その時を迎えるしかなかったのだ。

生存者はこう話している。

「誰も逃げられなかった。酷たらしく撃たれて、頭から体中から血が吹き出していた。逃げようとした人がいたのか、ナチスの兵士たちが『逃げ、逃げ』と叫んでいた。彼らは面白がって笑っていた。まるでサーカスでも見ているみたいに」

ナチスとウクライナ人のナチス協力者たちは誰にも情け容赦なかった。裸にされたユダヤ人女性たちは腕に赤ん坊を抱え、列に並び、子どもと一緒に射殺された。

バビ・ヤールの虐殺は 48 時間続いた。1 時間に 700 人以上が殺害された。列に並ばされたユダヤ人 11 人が 1 分ごとに殺害されていった。

9 月 30 日までに 33,771 人がナチスによって射殺された。

しかし、処刑はまだ続く。以降、ジプシーや共産主義者とみなされた人々 6 万人が殺害されたのである。

バビ・ヤールの虐殺は第二次世界大戦における最大の市民虐殺であった。

ナチスによるキエフ占領中に、バビ・ヤールだけで約 15 万人の市民が殺害されたと推定される。

ウクライナでは 600 万人以上がナチスによって殺害されたが、うち 160 万人がユダヤ人であった。



生々しい写真をご覧になる方は、下の URL からどうぞ。

https://twitter.com/Kumi_japonesa/status/1708433164212027677

⑩ウクライナ軍兵士がドンバス市民を殺害する意志を認める動画が SNS 上で拡散(2022年10月23日)

<https://twitter.com/i/status/1584076409555025920>



自らナチスと名乗る青年、彼らとはドンバスの人々。

※ツイッターのコメント:仮にこの動画がフェイクであるかは別にして、ドンバスをロシアに編入した事は正しかったと思うのです。8年という長い月日を入権人道の観点から捉えれば無視されてきた訳です。それをプーチン大統領が救済したのですから。

※別のツイッター:こういうキャンプをやってればそう育っちゃいますよね... 😊

(英国メディア The Guardian 取材/2017 年9月5日 UL)

<https://youtu.be/jiBXmbkwiSw>



「インテリはいい給料求めて国外に出て行っちゃうし、ナショナリストだけで横の国に何が出来るのは」

<https://twitter.com/2Hardmap2022/status/1584076409555025920?t=k5qetZH-S01fgwvXT8uI2w&s=09>

①金メダルの悲喜、ロシアでの出来事(2023年9月29日)

少年は1位の金メダルを失い、
非常に悲しんでいた 😞。
それを知ったコーチは、
少年を叱ることはせず、

ただ自分のメダルを与えた。

優しいコーチだ。

<https://twitter.com/i/status/1707710442427265177>



<https://twitter.com/Z58633894/status/1707710442427265177?t=7pOTJ3cic2JV K3JjZVzkQ&s=09>

⑫ドイツでのウクライナ人の詐欺行為(2023年9月22日)

ドイツで、ウクライナ人の一団が「ウクライナが NATO と EU の加盟費用を負担している」と信じ込ませて、高齢のドイツ人から金をだまし取った。

被害総額は 150 万ユーロ(約 2 億 3 千万円)。

<https://twitter.com/i/status/1704936454357749773>



<https://twitter.com/tobimono2/status/1704936454357749773?t=Fv3jTIBrLm8rR4nQmcX4Ig&s=09>

⑬「お前のものは俺のもの」「お前らなんかには与えない」(2023年9月30日)

<https://twitter.com/i/status/1707787333955973336>

